

氏名	那 須 正 義
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1231 号
学位授与の日付	昭和56年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	腰部脊柱管狭窄症の成因に関する臨床的ならびに実験的研究
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 折田薫三 教授 村上宅郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年になり腰部脊柱管狭窄症という概念が広く受け入れられるようになってきた。本疾患の基礎には“正常より狭い脊柱管 (developmental stenosis)”が存在するが、その成因は不明である。著者は腰部脊柱管を狭くし得る因子について、特に腰椎前彎に着目し検索を行った。姿勢に乱れの予想される130名を対象に、腰椎前彎の程度を示すFerguson角と脊柱管の広さを示すbody to canal ratioおよびbody to pedicle ratioとの相関関係を検討した。その結果、腰椎前彎が強いと脊柱管が狭いという傾向を認めた。さらにWistar系ratを用い腰椎後方成分に負荷の大きい実験的2足獣 (bipedal rat) を作成し、対照4足獣 (quadripedal rat) とを脊柱管の広さを示す指標であるbody to ratioと椎体椎孔前後径比を使用し比較検討した。その結果、2足獣は4足獣より狭い脊柱管を有する傾向を認めた。

臨床的ならびに実験的検索で得られた比較的狭い脊柱管が直ちにdevelopmental stenosisとして症状出現に関与するものではないが、本臨床例の腰椎前彎の強い人と実験的に作成した2足獣では、腰椎の後方成分に負荷が大きく、その部の骨形成がより促進されそのため椎骨後方成分に囲まれる脊柱管が相対的に狭くなるのではないかと推論した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は腰部脊柱管狭窄症の成因について臨床的ならびに実験的に研究したものであるが、従来十分には確立されていなかった本症の成因について重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。